

明日香村小委員会報告(案) 補足資料

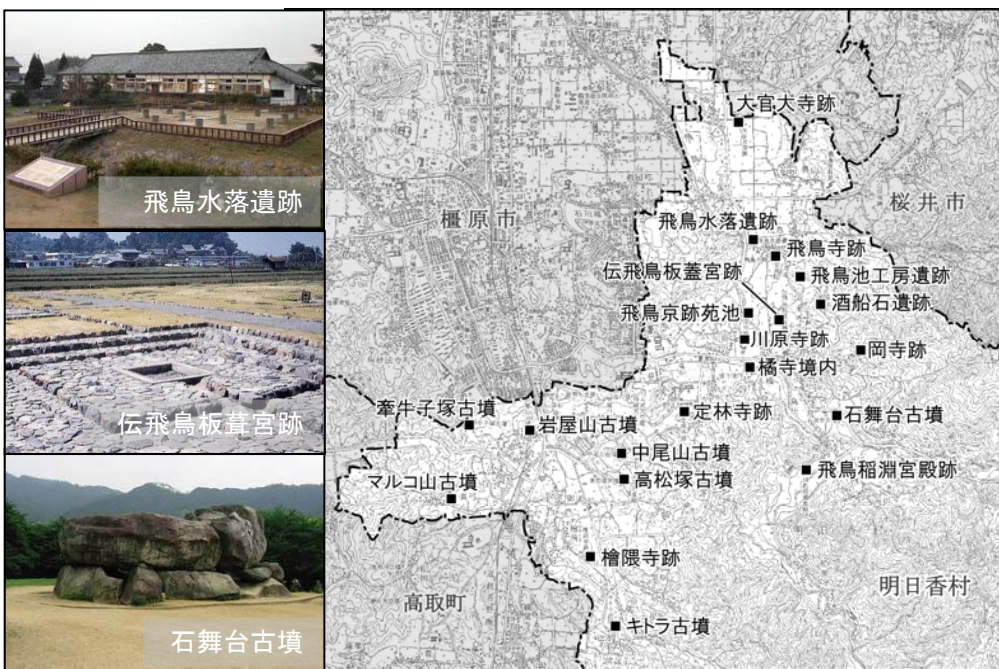
明日香村は、我が国の律令国家が形成された時代における政治及び文化の中心的な地域であり、往時の貴重な歴史的文化的遺産が数多く存在。また、かつて万葉集で詠われた風景を偲ばせる自然的環境、棚田や集落等の人文的環境とが一体となって、古代国家形成の記憶をとどめる特色ある歴史的風土を形成。

■古代国家の形成(宮殿の造営)

- 推古天皇が即位(592)し、持統天皇が藤原宮へ遷都(694)するまでの約100年間に、飛鳥の地は日本の首都として、各天皇が宮殿を置くほか、多くの寺院・古墳が築造された。
- 推古天皇の「豊浦宮」・「小墾田宮」、舒明天皇の「飛鳥岡本宮」、皇極天皇の「飛鳥板蓋宮」・「飛鳥河辺行宮」、斉明天皇の「後飛鳥岡本宮」、天武天皇の「飛鳥浄御原宮」等の宮殿があげられ、この地域の宮殿跡を「飛鳥京跡」と総称。

■万葉集に詠われた特色ある歴史的風土

- 『万葉集』に所出する地名延べ総数2,900のうち、大和地方に関連する地名は約900に及び、明日香村を含む高市郡に位置する地名(その一部に地名のついた単語を含む)は約150を数える。
- 飛鳥は、全国の万葉故地のなかで最も多くの地を残しているといわれている。
- これらの地名を残す場所の大半は、現在も明日香村および周辺地域における特色ある歴史的風土を感じることができる場として良好に保存されており、これら万葉集に詠われた特色ある歴史的風土は国民共有の財産となっている。



明日香村における主な遺跡等の分布



万葉集に詠われた明日香村の特色ある歴史的風土
【石舞台古墳上空より明日香村全景(写真:明日香村)】

1.はじめに

貴重な歴史的風土は、明日香村住民の日常的な生活の中で保存され育まれてきたものであり、将来に渡って良好に保存していくためには住民生活の安定及び産業の振興との調和が不可欠。

■住民生活の中で保存されてきた歴史的風土

- 各大字では、季節ごとに祭りなどの行事が行われている。中でも、飛鳥川上流部で行われる綱掛け神事は自然の景観要素と人文的な景観要素が一体となって形成する歴史的景観であり、明日香村を代表する風物詩となっている。
- 稲淵の綱作りは、大字の総代と家の並び順で当たった5軒でおこなう。綱の中央に吊る陽物は総代によって作られる。
- 真弓大字では、清掃活動や宮講の祭り、お寺やお地蔵さんで行なわれる行事、集落営農組合による「はたけの八百屋さん」など、年間数多くの行事が執り行われる。



はたけの八百屋さん（真弓大字）



男綱（綱掛け神事、稲淵集落）



女綱（綱掛け神事、栢森集落）



櫛玉命神社の祭・だんじり（真弓大字）

1.はじめに

現在、第4次整備計画に基づく取組みが徐々に進展し、「歴史的風土の創造的活用」の視点に基づく取組みの成果が現れつつある中で、明日香村を巡る社会情勢の変化や同計画の進捗状況も踏まえつつ、当面取り組むべき措置並びに将来的な取組みのあり方について報告。

古都保存法に基づく措置

- ・ 明日香村を古都に指定

明日香法に基づく措置

- ・ 村全域にわたる行為の制限による歴史的風土の保存
- ・ 住民生活安定のための措置

第4次明日香村整備計画（H22～H31）

- ・ 歴史展示の推進
- ・ 観光、交流の振興
- ・ 歴史的風土を活用した地域活性化等

「歴史的風土の創造的活用」の成果が現れつつある

依然として残る問題点・課題

- 人口減少や高齢化、農林業の衰退、観光客数の低迷、財政基盤の脆弱さが続く
- 歴史展示の更なる推進、農業の担い手の育成、明日香らしい観光・交流の振興、定住の促進などが課題



歴史的風土の保存及び生活環境の整備等を推進する上で、
当面取り組むべき措置並びに将来的な取組みのあり方について報告

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(1) 明日香村の現状

平成2年以降、人口が減少し、近隣自治体と比較してもその割合が極端に高い。また、昭和55年以降、高齢化が進行し、近隣自治体と比較してもその割合が高いなど、担い手が減少している。

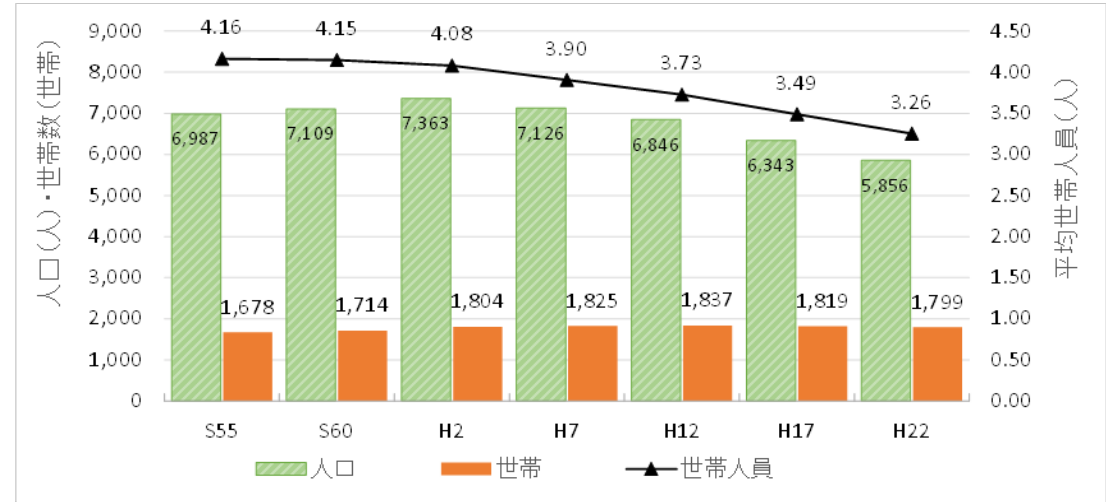
■人口減少

- 人口は、昭和55年から平成2年にかけて微増傾向であったが、平成2年以降、年々人口が減少し、平成22年人口は、平成2年人口の79.5%にまで減少した。
- 人口減少が進む一方で、世帯数は増加傾向にあり、核家族化が進んでいる。
- 近隣自治体との人口減少率を比較しても、-7.7%（平成17年～平成22年）と人口減少率が極端に高い。

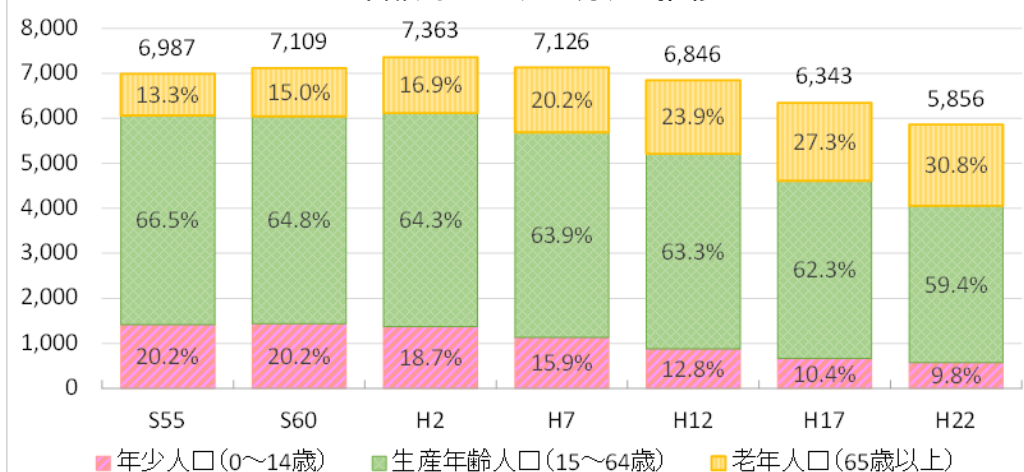
■高齢化

- 昭和55年以降、高齢化率(65歳以上人口率)が増加しており、高齢化が急速に進行しているといえる。
- その一方で、昭和55年以降、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)が減少しており、特に、年少人口が急速に減少している。
- 明日香村は、近隣自治体と比較しても、高齢化率(65歳以上人口率)が高く、30.8%に達している。

人口・世帯数・平均世帯人員の推移



年齢別人口(3区分)の推移



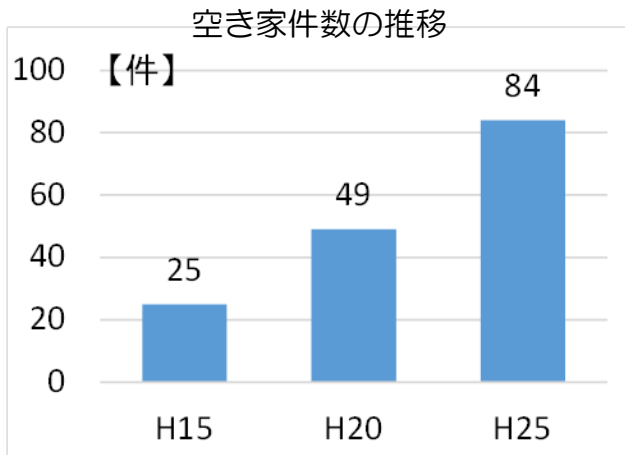
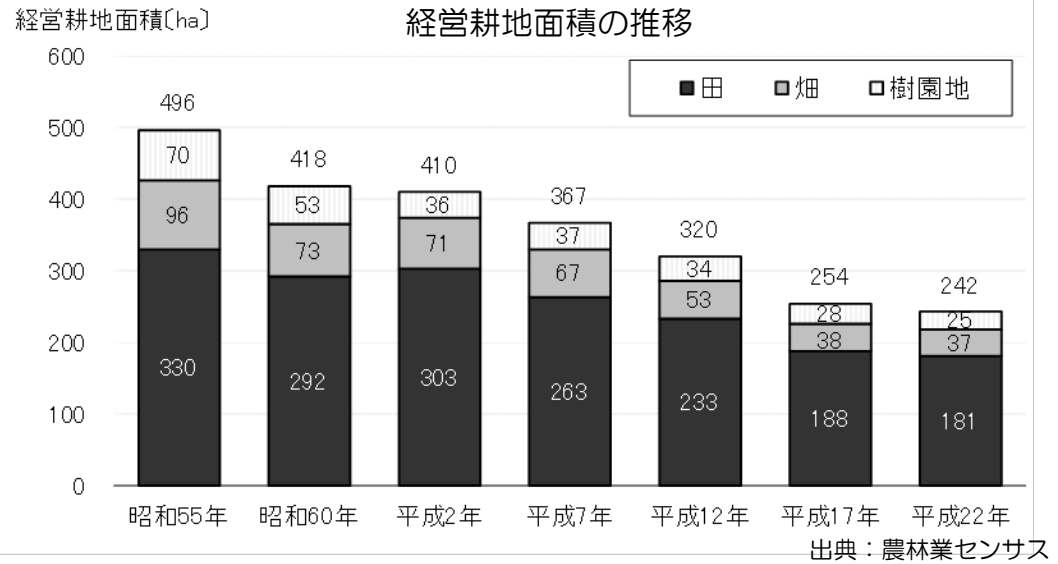
2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(1) 明日香村の現状

担い手不足による村の活力の低下を受け、耕作放棄地の増加、森林等の竹林化、空き家や廃屋の増加など、明日香らしい田園景観・里山景観への影響が懸念される。

■耕作放棄地や荒廃森林、空き家の増加

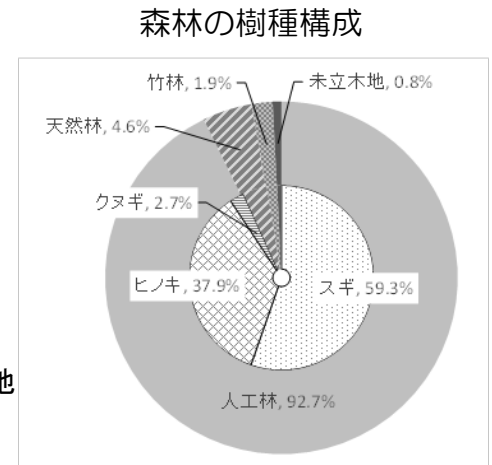
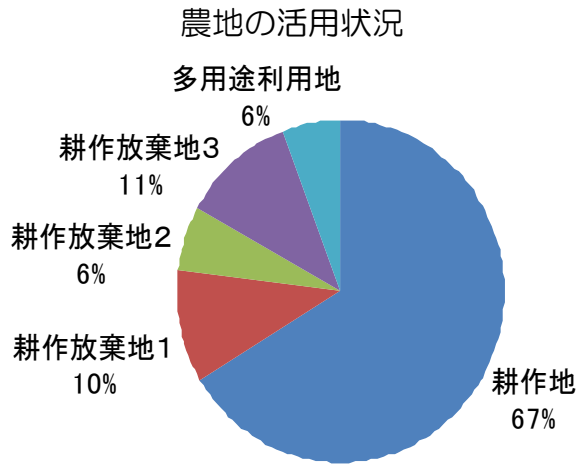
- 経営耕地面積は明日香法制定当時(昭和55年)には496haあったが、平成22年には242haとおよそ半分にまで減少している。
- 平成23年度の明日香村調査結果によると、農地に占める耕作放棄地の割合は合わせて約27%を占める。
- 森林の約93%を針葉樹人工林が占めており、間伐等の手入れが遅れている森林が増加している。
- 空き家件数は近年増加傾向にあり、10年前と比べて3倍以上となっている。



耕作放棄地1
耕作されておらず、草刈等により耕作が可能な農地

耕作放棄地2
基盤整備等を行なうことで、農地として利用可能な農地

耕作放棄地3
森林・原野化しており、農地として復元不可能な農地



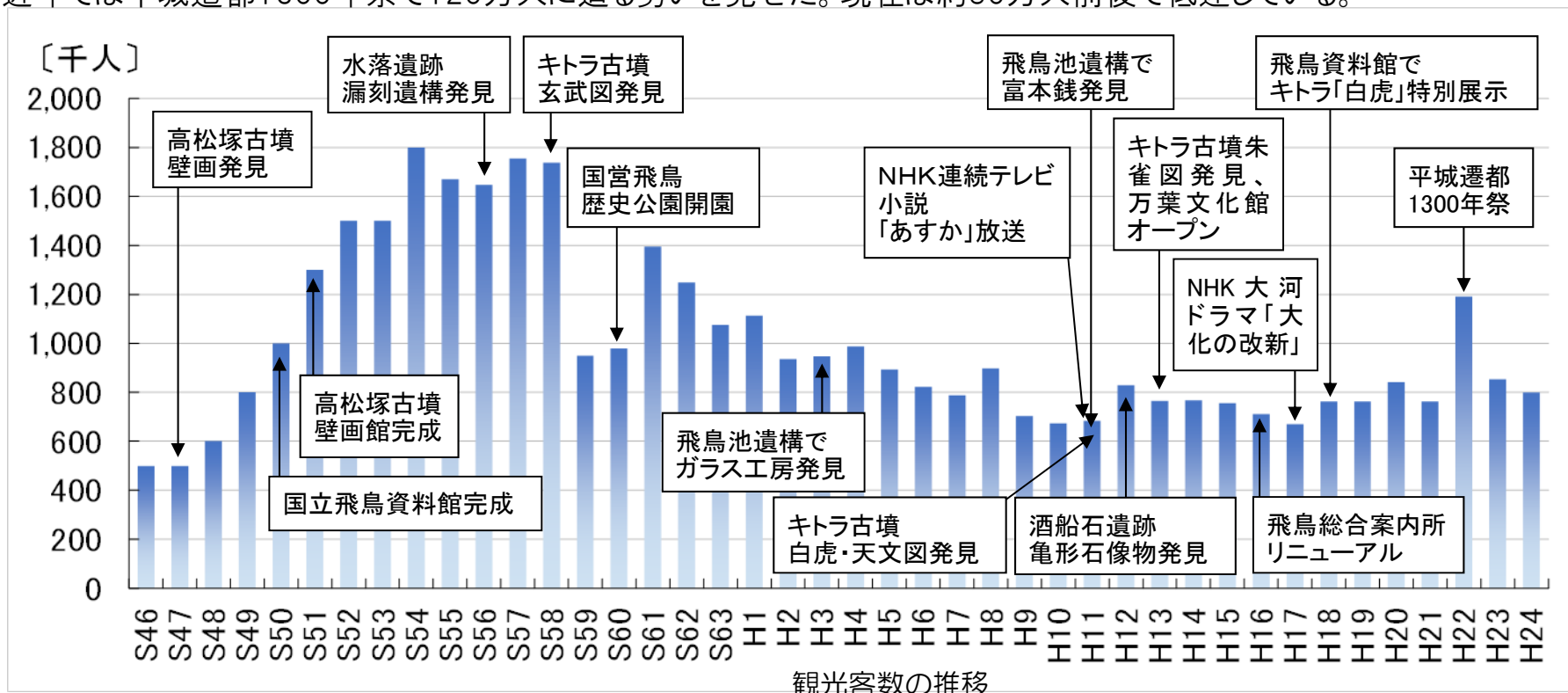
2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(1) 明日香村の現状

明日香村への来訪者数は、昭和47年の高松塚古墳壁画発見の後、昭和57年頃をピークに減少し、近年は年間約80万人前後で低迷している。

■観光客数の推移

- 高松塚古墳壁画が発見された後、いわゆる飛鳥ブームとなった昭和50年代のピーク時には年間約180万人を越えていた。
- その後、国営飛鳥歴史公園の開園、飛鳥池遺構の工房の発見、キトラ古墳の壁画発見、酒船石遺跡の亀形石造物の発見などの直後は観光客数が増加。
- 近年では平城遷都1300年祭で120万人に迫る勢いを見せた。現在は約80万人前後で低迷している。



2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(1) 明日香村の現状

財政規模が縮小する中で、地方交付税への依存度が近隣自治体と比較しても高い状況にある。

■ 厳しい村の財政状況

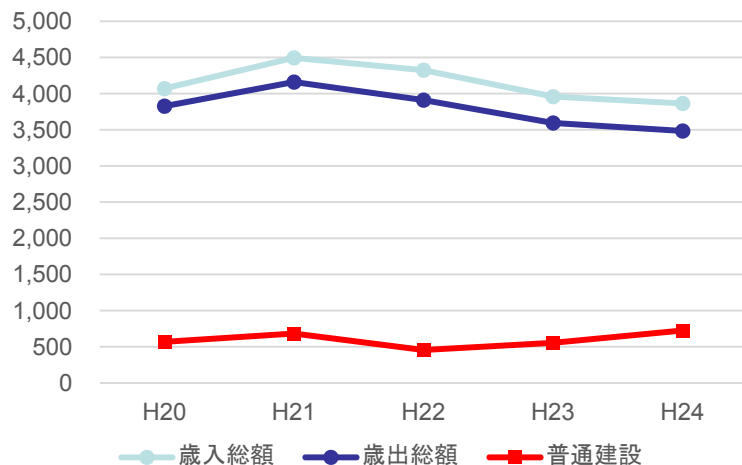
- 歳入、歳出ともに減少傾向にある。
- 歳入の内、市町村税が占める割合が11%程度と低い状況にある。
- その一方で、地方交付税が占める割合が約43.5%と高く、地方交付税への依存率が高い。
- そのため、財政力指数が0.245(H24)と小さく、近隣自治体と比較しても小さい。
- 経常収支比率が98%を超えており、財政が硬直化している。

財政力指数の比較

H24	
明日香村	0.245
橿原市	0.679
桜井市	0.518
高取町	0.339
大淀町	0.447
奈良県平均	0.391

財政力指数 = 基準財政収入額 ÷ 基準財政需要額

(百万円) 村の決算規模



近隣自治体との財政状況の比較

H24年度 (%)	歳入に占める市町村税比率	歳入に占める地方交付税比率	経常収支比率
明日香村	11.4	43.5	98.5
橿原市	38.9	17.3	95.5
桜井市	29.7	27.8	98.8
高取町	21.1	44.6	92.1
大淀町	24.1	33.2	87.2
奈良県平均	30.7	24.0	93.7

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

古都指定とともに、地域住民の理解と協力の下に歴史的風土を保存していくため、明日香法を制定。3次にわたる整備計画が住民生活の安定と利便性の向上に寄与する一方、歴史的風土の創造的活用の視点に基づく取組みが第3次整備計画以降に開始。

年	事 項
昭和41年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古都保存法の制定（議員立法） ○ 明日香村を同法に基づく「古都」に指定
昭和45年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」閣議決定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的風土及び文化財の保存措置：歴史的風土保存区域等の拡張 ・ 保存措置に伴う環境の整備（道路・河川・ごみ処理場等の整備、国営飛鳥歴史公園・歴史資料館等の整備、飛鳥保存財団の設置）
昭和51年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高松塚周辺地区が国営公園として整備決定（閣議決定）
昭和54年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「明日香村における歴史的風土の保存と地域住民の生活との調和を図るための方策について」諮問（内閣総理大臣→歴史的風土審議会） ○ 特別の立法措置の必要性等について答申
昭和55年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明日香法を制定 ○ 同法に基づき「第1次明日香村整備計画」を策定（～平成元年度まで）
平成2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2次明日香村整備計画の策定（～平成11年度まで）
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3次明日香村整備計画の策定（～平成21年度まで） ○ 「明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金」を創設
平成13年	<ul style="list-style-type: none"> ○ キトラ古墳周辺地区が国営公園として整備決定（閣議決定）
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4次明日香村整備計画の策定（～平成31年度まで）

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題（制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み）

宅地化の進展とスプロールの懸念から、地域住民の理解と協力の下に歴史的風土を保存していくため、明日香法の制定により、村全域を特別保存地区に相当する地区として指定するとともに、住民生活の安定を図るための措置が講じられている。

■明日香法の制定

○歴史的風土の保存

- 明日香村歴史的風土保存計画が定められ、村全域が、現状の変更を厳しく規制する第1種歴史的風土保存地区と、著しい現状の変更を抑制する第2種歴史的風土保存地区に指定され、それぞれ県知事の許可制により開発行為等の規制が行われている。

○住民生活の安定と向上

- 歴史的風土の保存と住民生活の調和を図るため、明日香村整備計画が策定され、公共施設の整備に関する事項、文化財の保護に関する事項、地域振興に関する事項等が定められている。
- 歴史的風土の保存を図るための事業等の財源として、明日香村整備基金が設けられ、運用益を歴史的風土保存事業等に活用している。
- また、国・県による支援措置として、歴史的風土創造的活用事業交付金などが設けられ、明日香村の歴史的風土を創造的に活用することに用いられている。

明日香村の歴史的風土のイメージ



和風建築以外は厳しく規制され、歴史的風土が良好に保存されている

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

■明日香法に基づく施策の概要

明日香法 (※)

明日香村の歴史的風土が、明日香村の全域にわたって良好に維持されていることにかんがみ、住民の理解と協力の下に保存するため、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法の特例及び国等において講ずべき特別の措置を定める。

※明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法

歴史的風土保存と住民生活の調和を図るための措置

明日香村整備基本方針(第4次 H22年度)
(国土交通大臣決定)

意見

社会資本整備審議会

明日香村整備計画(第4次 H22~31年度)
(奈良県知事作成、国土交通大臣同意)

意見

国の負担・補助割合の特例

道路、河川等の補助率の引上げ

(対象事業)道路改築、河川改良、下水道等

明日香村整備基金31億円(国24億、県6億、村1億)

- 国が明日香村に補助をして基金設立
- 運用益を歴史的風土保存事業等に活用

基金運用益の補完措置

明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金

- 基金運用益の低下も踏まえ、明日香村の歴史的風土を創造的に活用していくための支援として交付金を創設
- 平成12~16年度 国費 1.0億円
- 平成17~21年度 国費 1.1億円
- 平成22年度~ 国費 1.5億円 (平成26年度 国費1.5億円)

歴史的風土保存のための土地利用規制等

明日香村歴史的風土保存計画
(国土交通大臣決定)

歴史的風土特別保存地区に関する
都市計画決定 (奈良県知事決定)

- 歴史的風土特別保存地区
 - ・ 第1種歴史的風土保存地区
現状の変更を厳に抑制する地域
 - ・ 第2種歴史的風土保存地区
著しい現状の変更を抑制する地域
- 建築物の新築等一定の行為は 知事の許可が必要

土地の買入れ等(古都保存法)

- 不許可処分に対し、損失補償・土地の買入れ
- 土地の買入れ、保存施設整備等に対し、国が補助

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

明日香村全域にわたって歴史的風土特別保存地区が定められており、明日香村歴史的風土保存計画に基づき、2種に区分されている。都市計画法に基づく風致地区制度による土地利用規制も行われている。

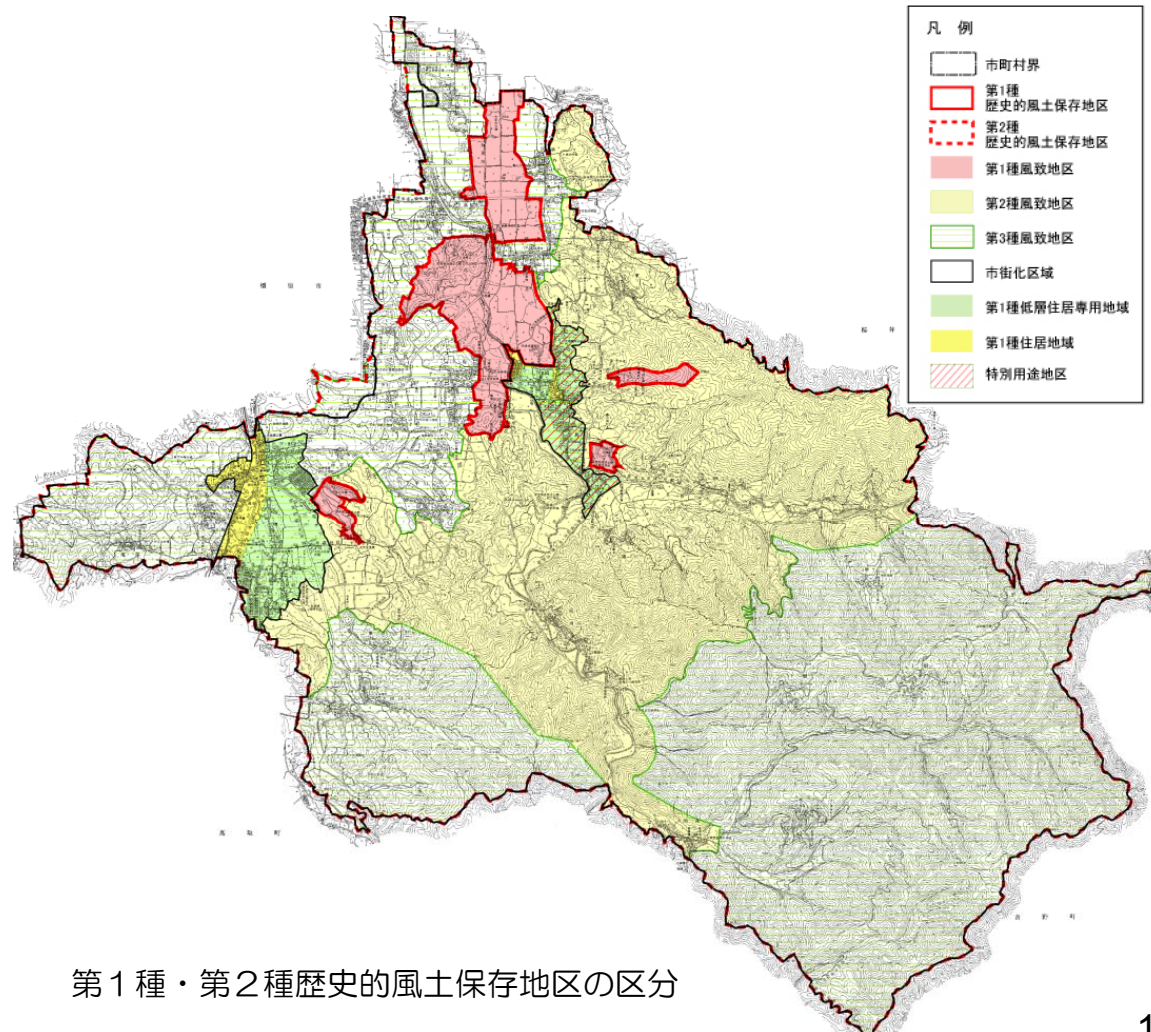
■歴史的風土保存計画

○第1種歴史的風土保存地区(125.6ha)

- 重要な歴史的文化的遺産がその周囲の環境と一体をなして明日香村における歴史的風土の保存上枢要な部分を構成している地域
- 現状の変更を厳に抑制し、その状態において歴史的風土の維持保存を図る。

○第2種歴史的風土保存地区(2,282.4ha)

- 第1種歴史的風土保存地区の周囲にあつてこれと一体となって歴史的風土を形成している地域
- 随所に所在する重要な歴史的文化的遺産がその周囲の環境と一体をなして歴史的風土を形成している地域
- 重要な歴史的文化的遺産の背景をなして明日香村における歴史的風土を形成している地域等
- 集落や農地等を含むエリアにおいて、住民生活との調和を図りつつ、著しい現状の変更を抑制し、歴史的風土の維持保存を図る。



第1種・第2種歴史的風土保存地区の区分

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題







(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

明日香村整備基金は、「明日香村特別措置法」第8条各号に掲げる事業を円滑に実施するため、「明日香村整備基金条例」に基づき、「地方自治法」第241条の基金として設置された。

■明日香村整備基金

○**基金の造成** (造成年度) 昭和55年度～昭和59年度 (造成金額) 総額31億円(国24億円、県6億円、村1億円)

○基金対象事業と成果

<p>歴史的風土の保存を図るために行われる事業 (法第8条第1号)</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落コミュニティ育成事業、集落コミュニティ活動事業、環境美化対策事業等 	 <p>伝統行事の育成及び運営</p>	 <p>美しい集落景観づくり</p>
<p>土地の形質又は建築物その他の工作物の意匠、形態等を歴史的風土と調和させるために行われる事業 (法第8条第2号)</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築相談員、古都法申請手続き助成事業、建築物の新造改築助成事業等 	 <p>家屋の屋根・外壁への助成</p>	 <p>塀の屋根・外壁への助成</p>
<p>住民の生活の安定向上を図り、又は住民の利便を増進させるために行われる事業で歴史的風土の保存に関連して必要とされるもの(法第8条第3号)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林家負担軽減事業、優良農林産物等奨励事業、集落環境整備事業等 	 <p>集会所の整備 (祝戸地区)</p>	 <p>集会所の整備 (東山地区)</p>

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

■明日香村整備基金運用益及び明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金の推移

基金の設置(S55)

住民生活の安定のため、きめ細かな事業の財源として「明日香村整備基金」を設置

【予算】国24億円、県6億円、村1億円

交付金の創設(H12)

基金運用益の低下も踏まえ、「明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金」を創設

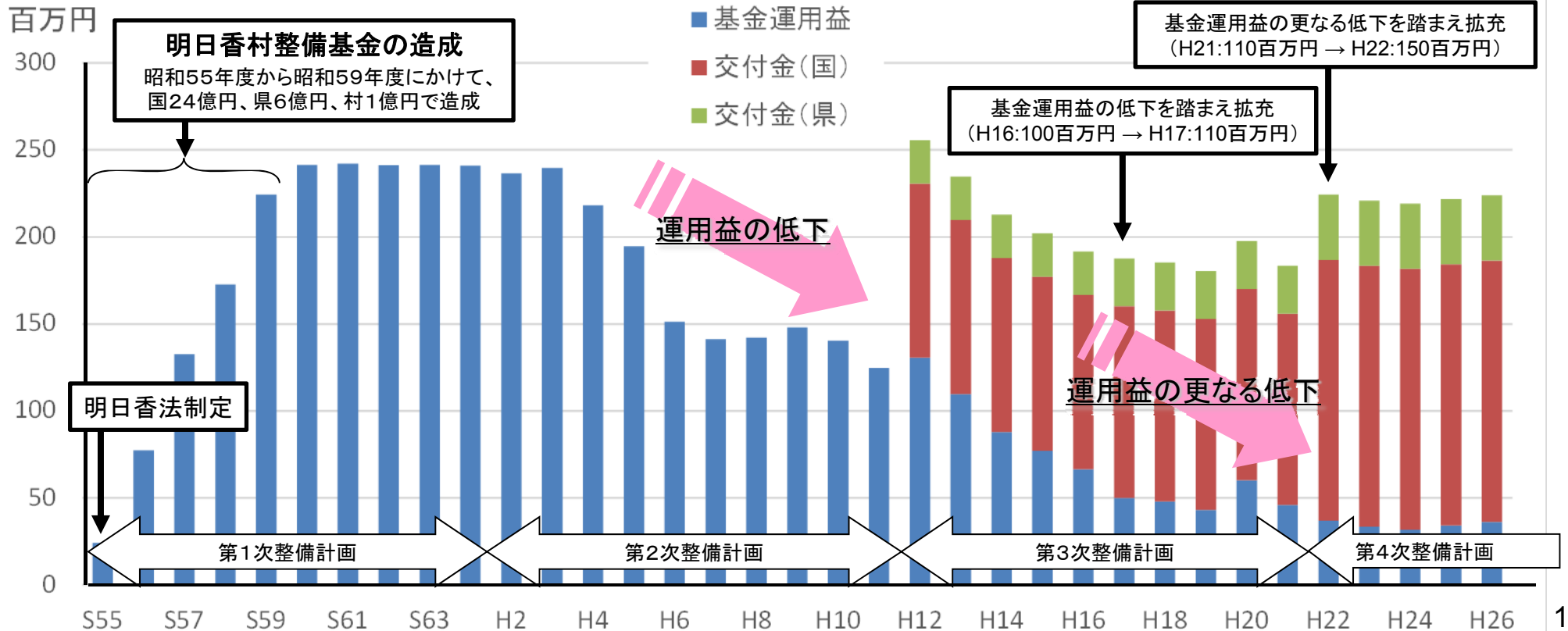
【予算】国費100百万円
(H17~H21:110百万円)

交付金の継続(H22)

基金運用益の更なる低下も踏まえ、景観の維持・向上や観光振興など新たな取組を支援するため継続・拡充

H22予算 150百万円 (対前年度比 1.36) (~H26:150百万円)

※ 平成26年度の基金運用益については約36百万円と見込まれており、依然として最低水準に低迷



2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

平成11年3月の歴史的風土審議会答申を踏まえ、明日香村において歴史的風土を創造的に活用するという新たな政策課題に対応するとともに、国民共有の財産である明日香村の歴史的風土を保全活用するという課題に対応するために設けられた。

■明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金

○目的

- 明日香村の歴史的風土の創造的活用により、学び、体験し、実感できる歴史文化学習の場としての整備を推進するため、明日香村が行う事業について助成することを目的とする。

○交付対象事業

村が次に掲げる歴史的風土創造的活用事業を実施するために必要な経費について、交付金を交付する。

〔明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金交付要綱〕

- 歴史的風土を活用した歴史文化学習の場の整備に関する事業
- 明日香村にふさわしい景観創出に関する事業
- 歴史的風土を活用した地域産業振興に関する事業
- 歴史的風土の保存についての国民啓発に関する事業



遺跡のCG再現等
(石舞台古墳)



景観の維持・向上
(栢森地区)



地域特産品の開発
(夢市等で提供)



国民啓発
(まほろば講座)

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (制度導入から第3次明日香村整備計画までの取組み)

3次にわたる整備計画が住民生活の安定と利便性の向上に寄与する一方、歴史的風土の創造的活用の視点に基づく取組みが第3次整備計画以降に開始。

■明日香村整備計画(第1次～第3次)

明日香村整備基本方針 (S55)

[整備等の方向]

- ・生活環境施設の整備
- ・農林業の振興、農村環境の整備
- ・遺跡の調査、史跡の整備等

明日香村整備基本方針 (H2改定)

[整備等の方向]

- ・生活環境施設の整備
- ・農林業の振興、農村環境の整備
- ・遺跡の調査、史跡の整備等

明日香村整備基本方針 (H12改定)

[整備等の方向]

- ・歴史的風土の創造的活用
- ・農林業基盤整備等の充実
- ・農商工にわたる総合的な施策展開
- ・生活環境の整備の推進
- ・遺跡調査等の推進

第1次整備計画 (S55～H1)

[計画の基本的方向]

生活環境、産業基盤等を総合的に整備し、農林業を主体とした“歴史と文化のむらづくり”をめざす。



小学校
の整備

第2次整備計画 (H2～H11)

[計画の基本的方向]

- 『歴史的風土を活かした村づくり』
- ・農林業等の産業振興
- 『健康で住みよい村づくり』
- ・保険・医療・福祉体制の充実



飛鳥川
の護岸整備

第3次整備計画 (H12～H21)

[計画の基本的方向]

- ・地域産業の振興などの地域活性化
- ・明日香村の歴史的風土を創造的に維持保全活用



万葉文化
館の整備

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況)

現在は、第4次整備計画に基づき、第3次整備計画からの歴史的風土の創造的活用の視点も踏まえ、4つの基本的方向性に基づく取組みを実施。

■第4次明日香村整備計画

明日香村整備基本方針

- 1 明日香村における生活環境及び産業基盤の整備等に関する計画作成の意義
- 2 計画の期間
- 3 計画の基本的方向
 - 歴史的文化的遺産の保存・継承と利活用 の推進
- 歴史的風土にふさわしい景観の維持・向上
- 歴史的風土を活用した地域活力の向上
- 生活環境及び産業基盤整備等の推進

第4次明日香村整備計画

- I 計画作成の意義
- II 計画の性格等
- III 村の概況
- IV 整備計画
 - 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進 (歴史展示の拠点施設整備、遺跡の整備等)
 - 歴史的風土の維持・向上 (景観阻害要因の改善、買入地の適正管理等)
 - 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上 (農林業の充実、耕作放棄地への対応等)
 - 生活環境基盤整備の推進 (道路、河川、下水道等の整備)
- V 計画達成のための留意事項
- VI 計画達成のための推進体制



例) 歴史展示の拠点施設整備



例) 遺跡の整備



例) 景観阻害要因の改善



例) 農林業の充実



例) 河川の整備

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2)これまでの取組みの評価・課題（第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況）

飛鳥京跡苑池整備や史跡の発掘調査等は順調に推移し、遺構のCG復元映像も成果を見せるが、歴史展示に関して関係主体間の役割分担と連携が課題となっている。

1. 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進

○成果

- 飛鳥京跡苑池整備や各史跡の発掘調査・現地見学会・講演会等については、概ね順調に推移。
- 東京国立博物館で開催された特別展「キトラ古墳壁画」などは大変な盛況ぶりであり、国内外から多くの関心が寄せられている。
- GPS機能を活用した携帯端末アプリを制作、新たな明日香村の歴史解説を実現。
- 地中に埋もれた遺構を分かりやすく体感できるようコンピュータグラフィックスによる復元映像作成や公開実験を実施。

○課題

- 万葉文化館を「歴史の総合展示施設」とする再整備には着手出来ていない。奈良県が平成22年に策定した歴史展示の基本方針についても、その後のフォローが出来ておらず、飛鳥資料館、キトラ古墳周辺地区体験学習館との役割分担も明確になっていない。
- 歴史展示・発掘調査推進の両面において、国・県・村など関係主体間の連携が図られていない。特に歴史展示については、誰が何を推進するのか筋道が出来ていない。
- 飛鳥宮跡中心部の整備に向けた検討は実施されたものの、史跡拡大や公有化などの課題がある。



万葉文化館



キトラ体験学習館の整備イメージ



飛鳥京跡苑池南池発掘状況



タブレットによる解説（石舞台）



CG映像による復元



講演会の様子

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況)

法制定時から懸案されていた景観阻害要因が改善され、集落単位の景観計画が村内4大字にて作成される一方で、ボランティアの窓口対応や集落活動の継続が困難になってきている。

2. 歴史的風土の維持・向上

○成果

- 法制定時からの懸案事項であった景観阻害要因(生コンプラント)の撤去が完了し、大きく景観改善が図られた。
- 集落単位の景観計画を4大字にて策定、農地の管理や住民活動の充実など地域単位でのきめ細かな景観形成の取組みが図られた。

○課題

- 企業やボランティアが活動を行う際の代表となる窓口機能が整っておらず、効率的な対応が出来ていない。
- 集落単位での景観計画は、まだ村内4大字での策定に限られており、引き続き計画策定を行っていく必要がある。
- 神事や祭りなど明日香村の歴史的風土を守る上で重要な活動の継続が、高齢化などにより難しくなっている。



集落ごとの景観計画



景観阻害要因の改善



生コンプラント撤去後の状況



道の両側に電柱のある道路



無電柱化(島庄地区)



ボランティアによる景観形成



真弓大字の祭・だんじり

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況)

農産物加工所の開設や新規就農者支援、集落営農組織による活動支援が一定の効果を上げる一方、農の担い手不足、就農者の高齢化による耕作放棄地の増加が依然として課題となっている。

3. 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上

① 明日香を支える「農」の維持・再生

○成果

- 農産物加工所「明日香夢の旬菜館」を開設し、地元農産物を活用したドレッシングやレトルト食品などの加工品の開発につなげた。
- 集落営農組織による活動支援や高付加価値化の取組みにより、農業の生産性及び生産意欲の向上が図られた。

○課題

- 「農」の担い手不足が引き続き深刻な問題であり、高齢化による耕作放棄地の増加が今後さらに加速することが予想され、地域住民を中心とした営農支援も一定の効果は上げつつも、抜本的な解決には至っていない。
- 新規就農支援策の実施で、遊休農地解消に一定の効果は上げているものの、担い手不足の解消には至っていない。また、明日香らしい住まい方など定住促進策との連携も不足している。



圃場整備 (阪田地区)



明日香夢の旬菜館



集落営農 (えいのうキトラ)



飛鳥ブランドの普及



うまし酒オーナー 餅つき大会



遊休農地の解消

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況)

スマートフォンを活用した観光ナビの構築、民泊や教育旅行による交流人口の増加、飲食店舗の数や質の向上の一方、魅力的な情報発信、体験メニューの充実、滞在型観光への対応が課題となっている。

3. 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上

② 観光・交流の振興

○ 成果

- ・ スマートフォンのアプリを活用した観光ナビシステム「あすかナビ」や観光ポータルサイトを構築し、明日香の魅力を発信。
- ・ 農家民泊による教育旅行の取組みなど、新たな観光・交流の創出が実現。
- ・ 飲食店舗数が15年前と比較して目に見えて増加しているだけでなく、リピーター客がついて混み合うなど個々のレベルが向上。

○ 課題

- ・ 明日香の歴史的価値を上手く伝えることが出来ていない。
- ・ 国内外の旅行者にとって、案内標識の表示や表現方法などの統一、分かりやすいHPの内容や見せ方が不十分。魅力的な情報発信が出来ていない。
- ・ 歴史体験、農業体験、生活体験の実施において、明日香らしさを感じられるメニューの充実やインストラクターの高齢化に対応した受入態勢の強化が必要。
- ・ 村内の公共交通について、観光周遊の観点からの利便性の向上、魅力向上などが課題。
- ・ 滞在型の観光ができる宿泊施設やサービスなどが不十分。
- ・ 自然体験など来訪者の新たな行動様式に応じられていない。



あすかナビの構築



かめバスの運行



観光イベントの開催

農作業体験



郷土料理作り体験



農家民泊の体験プログラム

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況)

空き家バンクシステムの活用により、空き家の店舗利用等が図られているが、新規就農や観光産業への従事など、明日香ならではの住まい方の実現に向けた施策との連携が不十分である。

3. 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上

③ 住みたくなる村づくり

○ 成果

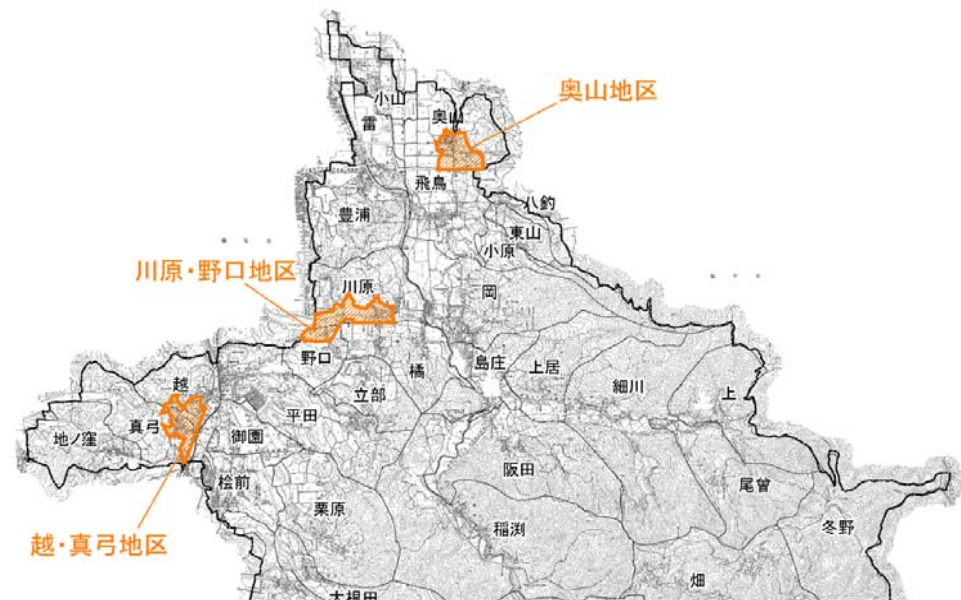
- 空き家バンクシステムの活用により、空き家の店舗利用などの有効活用が図られ、地域活力の向上に一定の効果을 上げている。
- 市街化調整区域における規制緩和を3地区において実施し、新たな住宅建築など一定の効果을 上げている。
- 子どもに対する教育支援策が奏功し、子育て世代が明日香村に転入する動きがみられる。

○ 課題

- 人口減少は依然として進んでおり、今後更なる空き家の増加が想定される。
- 人口減少と少子高齢化が近隣の自治体よりも進行している原因など、人口動態に関する実態を把握できていない。
- 新規就農や観光産業への従事など、明日香ならではの住まい方の実現に向けた施策との連携が不十分。
- 明日香の歴史的風土を守ってきた土地利用規制について、世代が変わることによる規制感の増加など、村民の理解の状況が変化。特に若者の人口流出が増大。



空き家バンクシステムの運用による空き家の店舗利用



都市計画法第34条11号の区域

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2)これまでの取組みの評価・課題（第4次明日香村整備計画に基づく取組みの進捗状況）

明日香村近隣公園の開園、県道野口平田線の開通など一定の成果を上げつつあるが、道路整備などについては文化財や景観に配慮した協議の進展が必要である。

4.生活環境基盤整備の推進（道路、河川、上下水道、都市公園、消防施設、厚生施設、教育施設の整備）

○成果

- 明日香村近隣公園の開園、県道野口平田線の開通など一定の成果を上げつつある。



県道野口平田線



明日香村近隣公園



明日香小学校改修



飛鳥川神奈備の郷・川づくり事業



ごみ処理施設リニューアル



小学生の飛鳥文化学習

○課題

- 県道桜井明日香吉野線など文化財・景観配慮のための協議に時間を要しているものがあり、協議の進展が必要。

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2) これまでの取組みの評価・課題 (明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金の成果)

歴史的風土を活用した観光振興の取組みや明日香らしい景観の維持向上など、地域の主体的な取組みの支援に相当の効果を発揮。

明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金の成果

- 歴史的風土を活用した観光振興の取組みや明日香らしい景観の維持・向上など、地域の実情に応じた取組みを支援。
- 明日香村における地域活性化の取組みの進展に寄与するとともに、歴史的風土の創造的活用に向けた地域の主体的な取組みの支援に相当の効果を発揮。



スマートフォンアプリを使った
周遊観光の実現



飛鳥ブランド品など
魅力溢れる特産品の充実



バーチャル技術等による
歴史体験の実現



特産品や食事などを通じた
農と食のおもてなしの実現



特色ある景観の保存による
歴史的風土の体感の実現

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組みの評価・課題

(2)これまでの取組みの評価・課題（明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金の成果）

地中に埋もれた遺構の体感や快適な周遊の実現、集落単位のきめ細かな景観形成や歴史的風土の新たな担い手の確保、特産品の開発やイベントによる観光振興、歴史的価値の理解促進や人材育成による魅力発信などの成果が上がっている。

1. 歴史的風土を活用した歴史文化学習の場の整備

- コンピュータグラフィックスによる復元映像作成や公開実験の実施により、地中に埋もれた遺構を誰もが分かりやすく体感できるようになった。
- ネットワーク道路の改修により、村内に広範囲に点在する史跡・寺院などの快適な周遊が可能となった。

3. 歴史的風土を活用した地域産業振興

- 村内農産物を活かした特産品の開発支援及び販売促進を行い、新商品の開発や飛鳥米の売り上げ向上などの成果につながった。
- 「観月会」「光の回廊」「彼岸花祭り」など明日香村の歴史的風土を活用したイベントを企画・実施し、観光振興を通じた地域活力の向上につなげた。

2. 明日香村にふさわしい景観創出

- 集落単位の景観計画を4大字にて策定、農地の管理や住民活動の充実など地域単位でのきめ細かな景観形成の取組みが図られた。
- ボランティア団体による景観形成活動に対して支援を実施、歴史的風土の新たな担い手の確保にも役立っている。

4. 歴史的風土の保存についての国民啓発

- 遺跡発掘調査の実施や発掘成果に係る企画展、村外での講演会等の実施により、明日香村の歴史的な価値をより多くの人に理解してもらうことに寄与。
- 村内小中学生に対する郷土学習を行うとともに、海外に向けた明日香村の重要性を発信できる人材を育成するなど、明日香の魅力発信に寄与。



CG映像による歴史紹介



ボランティアによる景観保全



彼岸花祭り



海外の学生との交流

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(1) 当面の取り組みの方向性

第4次整備計画は総じて順調に進展。特に歴史的風土の創造的活用の視点に基づく取り組みの成果が現れつつあり、当面の期間は、基本的に現整備計画の取り組みの方向性を継続すべきである。

第4次明日香村整備計画（H22～H31）に基づく取り組み

・歴史展示の推進 ・観光、交流の振興 ・歴史的風土を活用した地域活性化等

「歴史的風土の創造的活用」の視点に基づく取り組み

個々分野における課題はあるものの

“取り組みの成果”が現れつつあり、総じて順調に進展

成果の一例

第4次明日香村整備計画の期間（平成31年度まで）は、基本的に現在の方向性を継続

- ① 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進
- ② 歴史的風土の維持・向上
- ③ 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上
 - ・明日香を支える「農」の維持・再生
 - ・観光・交流の振興
 - ・住みたくなる村づくり
- ④ 生活環境基盤整備の推進



飛鳥京跡苑池の発掘



景観阻害要因の改善



明日香夢の旬彩館の開設



明日香村近隣公園の開設

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方 (国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進)

国・県・村の役割分担と連携方策を整理しつつ、万葉文化館の「歴史の総合展示施設」としての整備、コンピューターグラフィックスの活用、発掘調査、遺跡の整備等の推進が必要。

1. 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進

- 平成22年3月に奈良県が策定した「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」について、その後のフォローアップを行うとともに、国・県・村など関係主体間での役割分担、連携方策などを再度整理し、それを踏まえた明日香の歴史展示を推進すべき。
- 万葉文化館については、基本方針のフォローアップ等を踏まえつつ、飛鳥資料館、キトラ古墳周辺地区体験学習館との役割分担も再整理した上で、歴史テーマや人物等により「歴史」を総合的に展示する機能の充実など、「歴史の総合展示施設」としての整備が必要。
- コンピューターグラフィックスの活用による歴史展示については、本物の歴史体験の観点からの解説、周遊との組合せなど引き続きの展開が求められる。
- 地中に埋まっている歴史文化遺産については、引き続き発掘調査を進め歴史的価値を明らかにするとともに、遺跡を目に見える形で整備する工夫とビジュアルで説明できる方法が必要。



飛鳥資料館



万葉文化館

キトラ古墳周辺地区
体験学習館



バーチャル体験



飛鳥京跡苑池の整備



牽牛子塚古墳の整備

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方 (歴史的風土の維持・向上)

景観形成活動等を行う企業やボランティアを受入れるための仕組みや体制の強化、集落単位の景観計画を他地域にも拡充することなどが必要。

2. 歴史的風土の維持・向上

- 企業・ボランティアを受け入れる際の窓口機能や運営の仕組み、実行体制の確保など、受入システムの構築が必要。
- 大字単位での景観計画の成果を他の地域にも広め、集落特性に応じた将来像の議論、住民意識の向上などにつなげていくことが求められる。
- 資材置き場や電線、看板など景観を阻害する物件や行為に対して、その改善に向けて継続した検討を行うことが必要。



ボランティアによる景観形成



大字景観計画作成の議論



無電柱化を進める岡地区



不調和な景観



資材置場



荒廃した里山

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方（歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上）

農地の流動化や農作業の受託推進、新規就農者支援のための体制強化、農の6次産業化に向けた加工品開発による高付加価値化などが必要。

3. 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上

① 明日香を支える「農」の維持・再生

- 「農」の担い手不足が引き続き深刻な問題であり、公社などが農地の流動化や農作業の受託を進めるための体制づくりを進める必要。
- 新規就農支援のための農業組織の充実や、定住促進策と連携した取り組みが必要。
- 農業の6次産業化に向けては、より質の高いブランディングが求められる。
- 農作物の加工品開発による高付加価値化や土産物化への取り組み等により生産性の向上に繋げることが必要



耕作放棄地の状況



集落営農への活動支援



農産物を活用した特産加工品の開発



付加価値を付けた土産物



農産物直売所での販売

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方 (歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上)

明日香ならではの空間や体験の充実、明日香に関する統一的な情報発信、EV車導入などによる利便性・安全性・快適性に優れた新たな周遊交通の検討などが必要。

② 観光・交流の振興 (1/2)

- 「明日香まるごと博物館」の実現に向け、明日香ならではの体験や空間の提供などの充実が必要。
- 来訪者への「おもてなし」を実行するため、「観(る)」「感(じる)」「泊(まる)」「食(べる)」「買(う)」の仕掛けを行うことが望まれる。
- 明日香に関する統一的な情報発信を行うため、歴史ストーリー・人物を活用しつつ、世界基準に準じた内容の充実や見せ方を工夫。
- より利便性の高い観光周遊の実現のため、明日香の歴史を体感できる観光交通の導入など、住民生活の利便性にも配慮した新たな公共交通の整備を行うとともに、安全性と快適性に優れた環境にも配慮したEV車など新たな周遊交通の設備導入に向けた検討と体制づくりが必要。



明日香まるごと博物館のイメージ



あすかナビ



携帯端末を活用した観光周遊



動画や音声ガイドによる案内



周遊観光に適したEV車

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方（歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上）

ゲストハウスなど長期滞在型の宿泊施設の整備、農作業などの体験メニューの充実、農家民泊や教育旅行の推進、自然溢れる農村風景が楽しめるトレイルウォーキングの推進などが必要。

② 観光・交流の振興（2/2）

- レンタサイクルを活用して観光情報を得ながら楽しく周遊ができるよう、自動車道・自転車道・歩道の安全性や機能性を高めつつ、休憩施設の整備や乗り捨てシステムの導入などの検討が求められる。
- 来訪者が住民になったような気持ちで、暮らすように旅をすることができるよう、古民家を活用したゲストハウスなど長期滞在型の宿泊施設の整備を行うべき。
- 郷土料理づくりや農作業などの体験メニューの充実を図るとともに、明日香村の歴史・遺跡・風習などの話を聞くことができる農家民泊や教育旅行の推進が必要。
- 奥飛鳥の棚田や飛鳥川など豊かな自然が溢れる農村風景を楽しむことができ、伝承芸能や神事の素晴らしさを体感できるトレイルウォーキングを推進すべき。



レンタサイクルを使った観光



ゲストハウスの整備



教育旅行での農業体験、郷土料理づくり体験



奥飛鳥文化的景観の自然体験

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方（歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上）

県・村・地元が連携した空き家バンクシステムの運営体制や制度の強化、子どもたちが歴史・文化を学習する地域学や国内外からの来訪者に対するガイド経験の推進が必要。

③ 住みたくなる村づくり

- 今後更に増加する空き家の利用促進に向け、県・村・地元が連携した空き家バンクシステムを運営する体制および空き家所有者や利用希望者に対するフォローの充実などの制度設計の強化が必要。また、老朽化した空き家の管理手法の検討も必要。
- 市街化区域における住宅地の創出など定住促進の取り組みが必要。
- 子どもたちが明日香村の歴史・文化を体系的に学習する地域学や生涯学習について、地域学習教材のあり方や内容の検証を進めるとともに、国内外からの多くの来訪者に対し、ガイド経験などを通じて明日香村の価値を発信できる人間関係調整能力を養うことが望まれる。



空き家バンクによる空き家の利活用



伝承芸能発表会「八雲琴」



郷土学習「明日香学」



「ボランティアガイド」の様子

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(2) 当面の施策のあり方 (生活環境基盤整備の推進)

地域住民の理解と協力の下で、道路や河川等の生活環境基盤の整備を推進することが求められる。

4. 生活環境基盤整備の推進

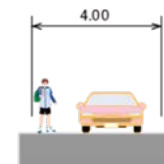
- 歴史展示の推進、歴史的風土の維持向上及び地域活力の向上のためには、地域住民の理解と協力が不可欠であり、引き続き第4次整備計画に基づく生活環境基盤整備の推進が求められる。



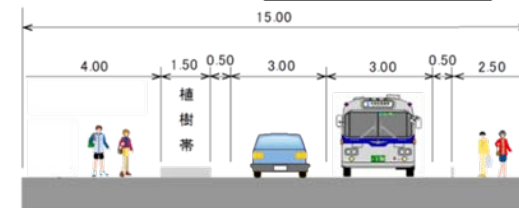
飛鳥川河川整備 (左：上池、右：下池)



◆整備前



◆整備後



すれ違いも困難な狭隘な道路



通行区間が明確でスムーズな道路



県道野口平田線の整備

3. 当面取り組むべき施策のあり方

(3) 当面の支援のあり方

奈良県を中心とした定期的な状況把握・検証・評価、国・県による計画達成に向けた努力や支援が不可欠。明日香村の主体的な取り組みによる活性化を図るため、平成27年度以降も交付金を継続し、あわせて観光・交流による魅力向上の取り組みへの支援を図るべき。

■明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金による支援

課題

- 明日香村整備基金の運用益が依然として最低水準に低迷（H26の基金運用益見込みは約36百万円と過去最低水準）
- 近年ニーズが高まっている滞在型観光の実現に向けた支援が必要

事業内容

第4次明日香村整備計画(H22～31)(H22.7.23奈良県知事作成、国土交通大臣同意)と連携し、明日香村をめぐる社会経済情勢の変化等に伴う課題に対応して、**地域産業の振興や景観の維持・向上など、村の主体的な取組を支援**

→明日香の歴史的風土を活用した観光・交流の取組を新たに支援

○歴史文化学習の推進



遺跡等のCG作成などにより、誰もがわかりやすく飛鳥の歴史を体感できる歴史文化学習を推進

○景観の維持・向上



里山や竹林等の景観・環境保全活動への支援などにより、明日香に相応しい景観を創出

○地域産業の振興



地元の農産物を活用した特産品開発への支援など、地域活力の向上につながる地域産業を振興

○国民啓発の推進



発掘成果の展示や講演会などにより、飛鳥の歴史的文化的遺産の価値を広く国民に啓発

拡充事項

○観光・交流による魅力向上



古民家等を活用した滞在型観光の拠点の整備や、歴史的風土を活用した明日香ならではの農業体験プログラムの開発など、観光・交流による魅力向上を推進

施策の成果

- 国民共有の財産である「まほろば」明日香村における歴史的風土の保存と生活環境基盤整備の推進
- 歴史的風土の創造的活用による観光・交流の推進、地域活性化

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

人口減少・超高齢化の急速な進展、都市間競争の激化、国際観光需要の増大といった中長期的な社会経済状況の変化を今後も見通しつつ、明日香村における将来的な取組みのあり方について、国際的な視点などの新たな観点も踏まえ、次期整備計画の策定期間までの間に、更に議論を進めるべきである。

中長期的な社会経済状況の変化

- ・人口減少・超高齢化の急速な進展
- ・グローバル化の進展
 - ・都市間競争の激化
 - ・国際観光需要の増大

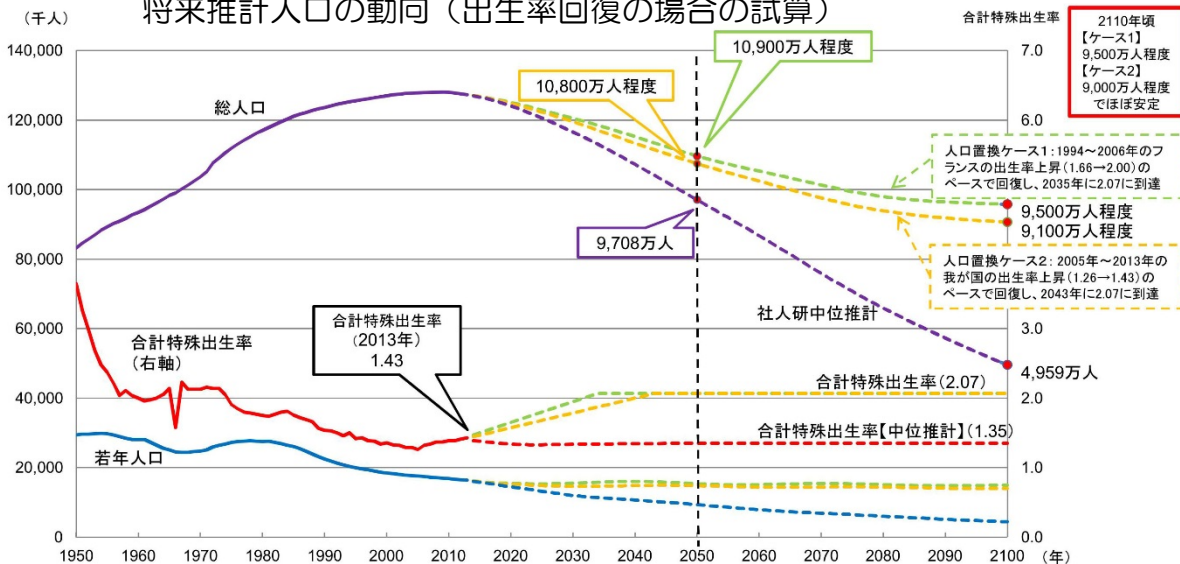
明日香村における将来的な取組みのあり方

以下の新たな観点を踏まえ、次期整備計画の策定期間までの間に、更に議論を進めるべき

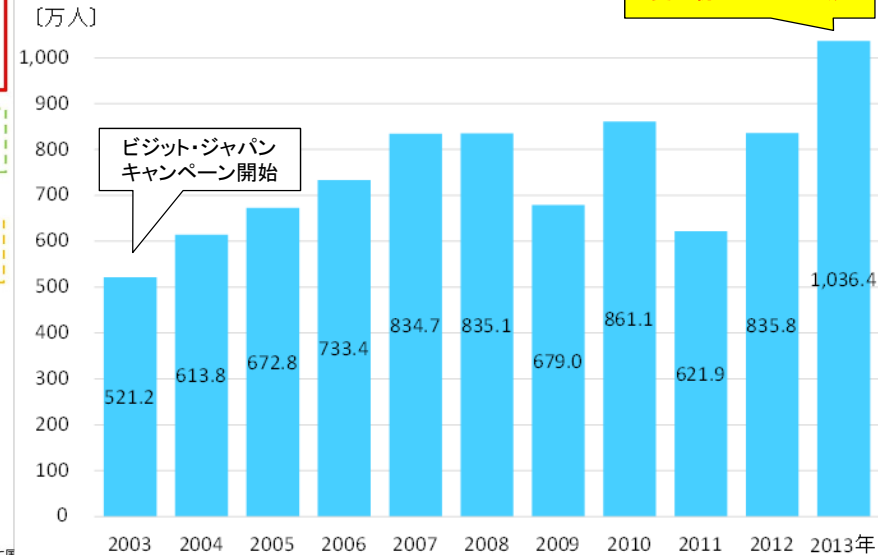
《踏まえるべき新たな観点》

- ・国際的な視点からの世界遺産登録を目指した取組み
- ・土地利用規制により守られてきた明日香村の価値の捉え方
- ・活性化に向けた明日香村民の更なる主体的な活動 など

将来推計人口の動向（出生率回復の場合の試算）



訪日外国人旅行者数の推移



注：2012年以前の値は確定値、2013年の値は暫定値

出典：日本政府観光局（JINTO）

(出典) 1950年から2013年までの実績値は総務省「国勢調査報告」人口推計、厚生労働省「人口動態統計」、推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」、厚生労働省「人口動態統計」をもとに国土交通省国土政策局作成。

(注1) 「中位推計」は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の中位推計(出生中位、死亡中位)。その他は同推計の年齢別出生率の仮定値と2012年の生命表による生残率を用いた簡易推計による。(「中位推計」と簡易推計の乖離率を乗じて調整)。各ケースの値はそれぞれの合計特殊出生率の想定に合うよう出生率仮定値を水準調整して試算。

(注2) 「人口置換ケース1(フランスの回復ベース)」: 2013年男女年齢(各歳)別人口(総人口)を基準人口とし(合計特殊出生率1.43)、1994~2006年におけるフランスの出生率の変化(1.66から2.00に上昇)の平均年率(0.03)ずつ出生率が年々上昇し、2035年に人口置換水準(2.07)に達し、その後同じ水準が維持されると仮定した推計。

「人口置換ケース2(日本の回復ベース)」: 2013年男女年齢(各歳)別人口(総人口)を基準人口とし(合計特殊出生率1.43)、2005年~2013年における我が国の出生率の変化(1.26から1.43に上昇)の平均年率(0.02)ずつ出生率が年々上昇し、2043年に人口置換水準(2.07)に達し、その後同じ水準が維持されると仮定した推計。

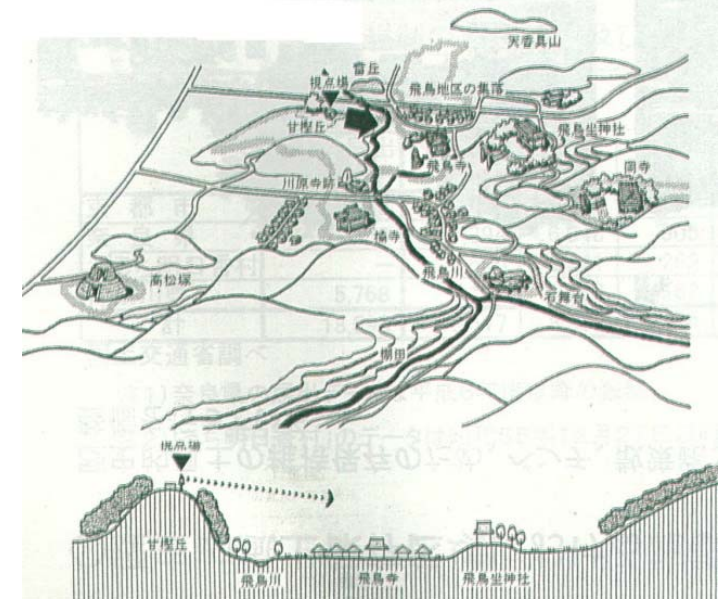
4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(1) 明日香村の将来像 (守られるべき明日香村の歴史的風土)

明日香村の歴史的風土は、村全域にわたり多数存在する歴史的文化的遺産と周囲の自然的人文的環境が一体をなして形成している総体であり、潜在的な遺産の存在によりその価値が一層高まる。

1. 守られるべき明日香村の歴史的風土

- 明日香村の歴史的風土とは、村の全域にわたり数多く存在する歴史的文化的遺産及びこれらと周囲の自然的人文的環境が一体をなして形成している総体である。
- 明日香村の歴史的風土については、現時点で明らかにされている「見える」歴史的文化的遺産のみならず、その周囲の自然的人文的環境の中に眠る「いまは見えない」潜在的な遺産の存在により今後その価値が一層高まり得るものである。
- 明日香村の歴史的風土は、歴史的文化的遺産及びこれらと一体を成している森林、河川等の自然的環境とともに、日本の原風景ともいえる棚田等の田園景観、さらには檜前、飛鳥等をはじめとする優れた景観を有する集落等の人文的景観が歴史的風土の重要な構成要素となっている。



明日香村の歴史的風土のイメージ



史跡等の歴史資産



棚田等の自然環境



集落の家並み

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(1) 明日香村の将来像（明日香村の価値の捉え方）

日本人の精神的な拠り所である明日香村は「日本人の心のふるさと」として特別な地であるとともに、東アジアをはじめ世界との交流の文化を持つ独自のストーリーが歴史的風土の価値を形成している。

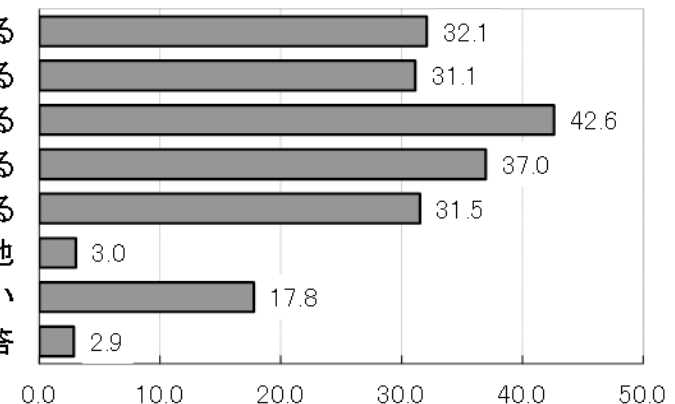
2. 明日香村の価値の捉え方（1/2）

- 国家的見地から国民共有の財産であり日本人の精神的な拠り所である明日香村が、日本人の心のふるさととして特別な地であると改めて認識するとともに、明日香村の価値を様々な観点から絶えず検証し、常に高い次元で国際的な観点から捉えていくことが大切。
- 東アジアの混沌とした歴史的時代背景の中で、世界との交流の文化を持つ明日香村ならではのストーリーが歴史的風土の価値をつくり出していることを踏まえ、国際的な視点から明日香村の普遍的価値を証明し、世界遺産登録を目指して取組みを進めることが求められる。



「落陽・明日香古京」／第11回特選：藤江宏氏

文化財保存だけでなく、教育・福祉・環境などへの財政面や施策面で波及効果がある
 住民の保存に対する意識が高揚し、より一層の効果的な保存につながる
 世界で価値が認められることにより、村民の村への誇りと愛着が高まる
 観光客の増加に伴い地元経済が活性化する
 明日香村の知名度が上がり、農産物など地域産品のブランド力が高まる
 その他
 特に期待することはない
 無回答



H25住民アンケート結果（世界遺産登録に期待すること）

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(1) 明日香村の将来像 (明日香村の価値の捉え方)

万葉集に詠われ歴史的風土と結びついた貴重な万葉故地、村民の四季と共生する生活等が価値を形成し、土地利用規制と生活環境整備がその価値を高めている事を前向きに認識すべきである。

2. 明日香村の価値の捉え方 (2/2)

- 万葉集に詠われた明日香村の歴史的風土が、現在まで良好に保存されていることに加え、身分や性別に関係なく誰もが詩を詠めたという点で、世界が注目する飛鳥時代の平等意識や文化水準の高さを誇りにしつつ、歴史的風土と結びついた貴重な万葉故地が明日香村の価値を高めていることを認識することが必要。
- 村民が暮らす場としての視点から、農業を中心とする生業と信仰に結びついた祭祀など四季と共生する生活と、史跡や地中に眠る数多くの歴史資産が共存する貴重な歴史的風土を有する地域であることを再認識し、村民自身が誇りと自覚をもって生き生きと暮らせるビジョンを持つことが必要。
- 土地利用規制が厳しく行われて地域の特徴が守られてきたからこそ生み出されてきた価値があり、そこに整備計画等に基づく施策の効果が相まって価値が高まってきており、それがようやく一体のものとして実感できる時代に来ているという認識を持つべき。
- この価値が生み出された規制や整備を前向きに捉えた上で、歴史的な背景を持つ農業のシステムに新たな価値を認識するなど、独自の価値観で生活の幸福感を享受できる将来像を持つことが必要



万葉集に詠われた飛鳥川



重要文化的景観「奥飛鳥の文化的景観」



農業の様子



伝統行事：おんだ祭

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(1) 明日香村の将来像（明日香村の歴史的風土保存のための枠組み）

土地利用規制と住民生活の調和という基本的方向性に加え、村民の自主的・主体的な活動の観点から歴史的風土保存のための枠組みを検討することが求められる。

3. 明日香村の歴史的風土保存のための枠組み

- 明日香法等に基づく歴史的風土保存のための土地利用規制のあり方について、将来的な取組みの基本的方向性も含めて検討を進めるべき。
- 歴史的風土保存と住民生活の調和を図るための措置である明日香村整備計画などについて、将来的な取組みの基本的方向性の検討を引き続き行うことが必要。
- 法制度に基づく将来的な取組みの基本的方向性に加え、明日香村の価値を高めるために、村民の自主的かつ主体的な活動の観点から歴史的風土保存のための枠組みを検討することが求められる。

明日香法に基づく施策の概要

歴史的風土保存のための 土地利用規制等

明日香村歴史的風土保存計画
(国決定)

歴史的風土特別保存地区
(県決定)

土地の買入れ等
(古都保存法)

歴史的風土の保存と 住民生活の調和を図るための措置

明日香村整備基本方針
(国決定)

明日香村整備計画
(県作成)

国の補助割合の特例

明日香村整備基金
(国24億円、県6億円、村1億円)
・運用益を村の歴史的風土保存事業等に活用

明日香村歴史的風土創造の活用事業交付金
・基金運用益の低下を踏まえ平成12年度より創設

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(1) 明日香村の将来像 (歴史的風土を活用した明日香村の活性化)

農業や観光業をはじめとする地域産業の振興、移住・定住の促進に向けた暮らしやすい環境づくり、歴史的価値を表現するシナリオやブランディング、ストーリーづくりが必要。

4. 歴史的風土を活用した明日香村の活性化

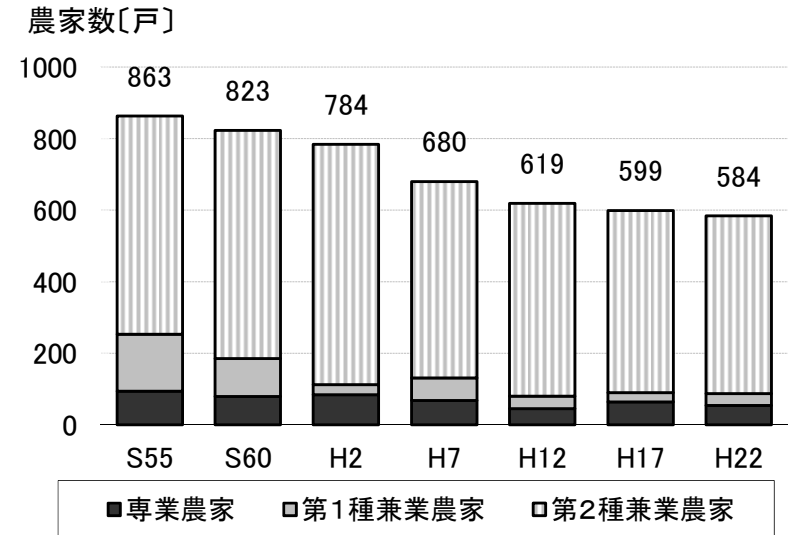
- 歴史的風土を構成する田園や森林を将来に渡って維持していくために、農林業の振興を図ることが必要。
- 歴史的風土の創造的活用により、農業や観光業をはじめとする地域産業の振興を図るとともに、移住・定住の促進に向けて次世代の担い手が暮らしやすい環境をつくることを通じて、歴史的風土の維持保全に必要な担い手を確保することが必要。
- 日本の東アジアの原点であるなど明日香全体の歴史的価値を表現するシナリオ、ブランディング、ストーリーづくりが必要で、歴史・歴史物・体験をトータルさせた視点に基づく取組みが求められる。



あすか風舞台での演劇鑑賞

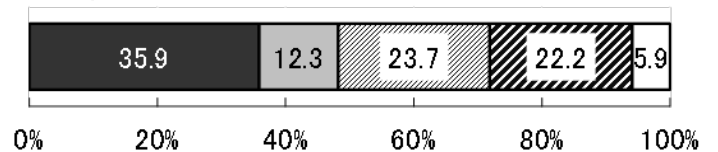


稲刈の棚田



農家数の推移

- 今後10年以上は続けていく
- 後継者がいるので、引き継いでいく予定
- ▨ 今後10年以内で活動しない可能性が高い
- ▩ 今後5年以内で活動しない可能性が高い
- その他



H25住民アンケート結果

(農業従事者における現在の活動形態の継続意向) 39

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(1) 明日香村の将来像（地域住民及び国民の理解協力・積極的な関与）

村民が大事にする生き方や活動に対する若者の主体的な関与、集落ごとの主体的な取組みに対する行政からの支援、国民負担のあり方の検討、国民や企業等の理解協力の促進と積極的な関与を求めることが必要。

5. 地域住民及び国民の理解協力・積極的な関与

- 地域住民が明日香村の保全や発展に対して誇りを持ち、明日香村の担い手として前面に立つためには、神事や祭りなど明日香村民が大事にする生き方や活動等に対して、特に若者が理解協力を示し、主体的に関与することが必要。
- 地域住民が集落に対して持つアイデンティティを大切にしながら、集落ごとの取組みに対して、地域住民の主体的な活動を軸に、行政からの支援を合わせる形で積み上げていくことが求められる。
- 明日香村は日本だけでなく世界の財産であるため、国民負担のあり方を検討しつつ、明日香法による歴史的風土の保存とその効果に対して、広く国民や企業等の理解協力を促し、積極的な関与を求めることが必要。



地縁活動（美化活動）



栢森の綱作り（綱掛け神事）



稲渚の綱掛け神事



くがたち（甘檜坐神社）



大字の清掃活動

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(2) 将来的な取組みの基本的方向性（歴史的文化的遺産の保存と活用）

スケールを体感できる飛鳥宮跡中心部の整備の検討を進めるとともに、文化庁の検討会の議論を踏まえつつ、高松塚古墳壁画の保存管理・公開等に向けた検討を進めるべき。

1. 歴史的文化的遺産の保存と活用

- 飛鳥宮跡中心部については、現地でスケール感を体感できる歴史展示の実現に向け、引き続き、整備に向けた検討を進めるべき。
- 高松塚古墳壁画については、文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」において、環境を制御しながら安全に壁画・石室の保存管理ができるよう、修理後の当分の間は、古墳の外の適切な場所において保存管理・公開を行うことが適切であると結論づけられている。なお、壁画修理後の古墳現地の扱いや、壁画・石室の当分の間の保存管理・公開の方法、場所等については、引き続き検討を行うことが必要とされており、その議論を踏まえつつ、今後検討を進めるべき。



飛鳥宮跡の復元整備イメージ



高松塚古墳壁画



古墳壁画の修理



文化庁

修理作業室

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(2) 将来的な取組みの基本的方向性（歴史的風土にふさわしい景観の形成）

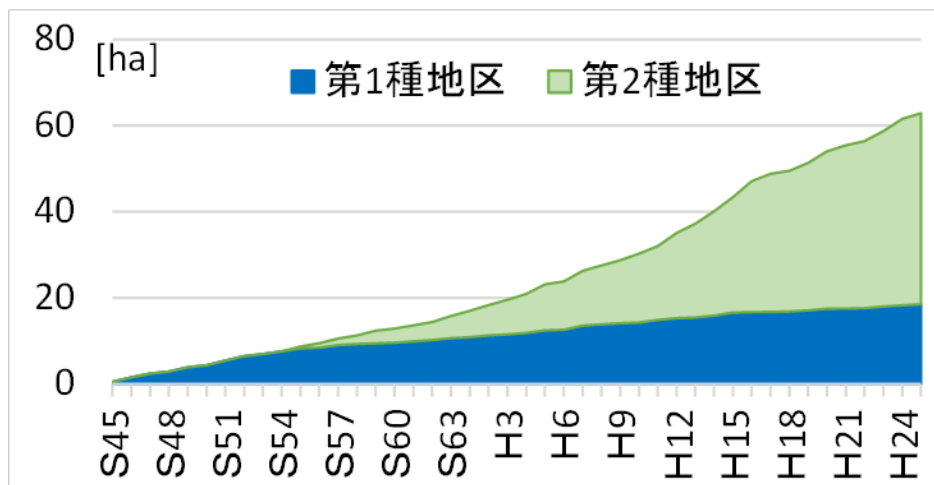
地域資源による建築資材や古材の活用を含め、専門的知識を有するマスターアーキテクト等による修景指導・助言による景観形成の検討を行うとともに、買入地の維持管理と活用についての検討を進めるべき。

2. 歴史的風土にふさわしい景観の形成

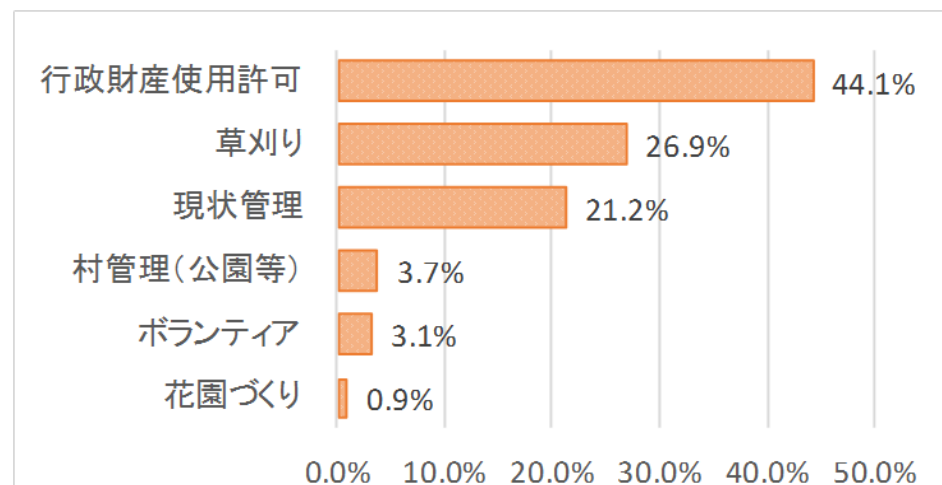
- 集落景観に配慮した建築物・工作物等の修景に関し、地域資源による建築資材や古材の活用を含め、専門的知識を有するマスターアーキテクト等が指導・助言することにより景観形成を推進するよう検討を進めるべき。
- 買入地の維持管理および活用に関しては、古都全般に関わる問題として総合的に検討を進めつつ、全村が特別保存地区であるという明日香村の特殊性を考慮した上で今後の対応の方向性について検討を進めるべき。



建築物等の修景（自然石の石積み、塀）



買入れ面積の推移



買入地の管理形態（面積ベース）

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(2) 将来的な取組みの基本的方向性 (地域産業振興による地域活力の向上)

農業体験・民泊・教育旅行など交流事業の国際展開、万葉集の全国的な広がりも活かした戦略的な広域連携と効果的な情報発信、遠方からの来訪客の呼び込みと宿泊施設の提供等を推進すべき。

3. 地域産業振興による地域活力の向上 (1/2)

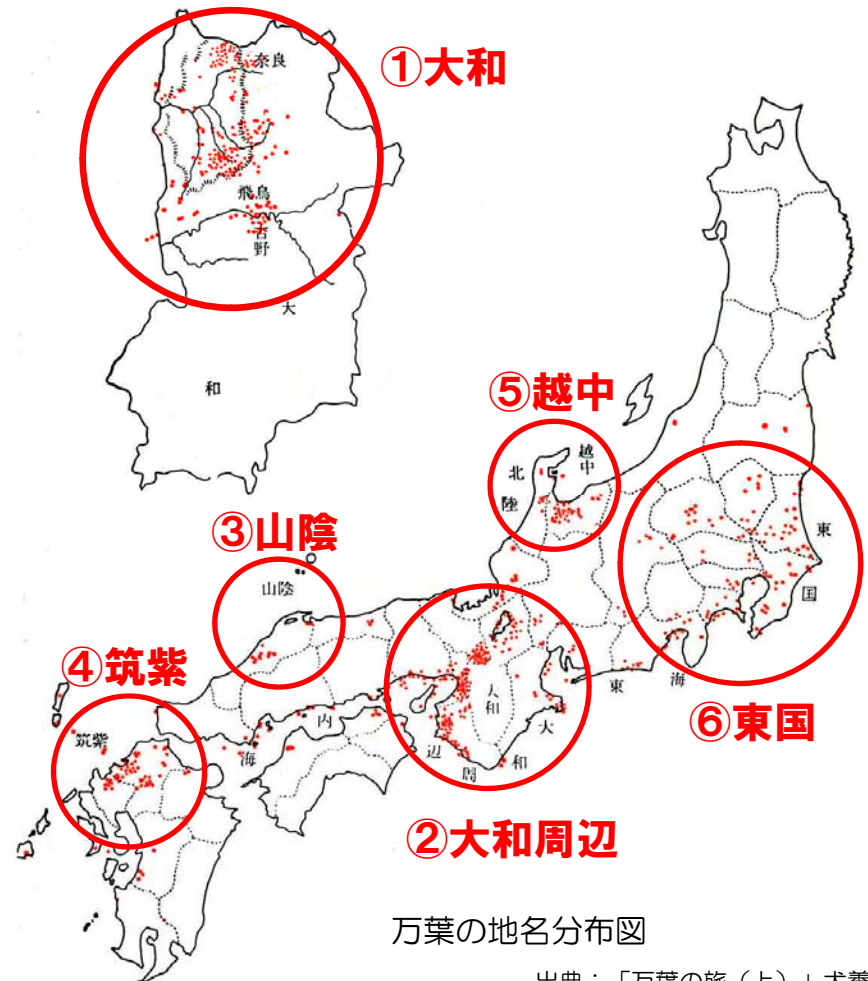
- 農業体験や民泊、教育旅行の受入れ、観光ガイドなどの都市住民との交流を国際展開し、都市住民や外国人との交流を通じて、住民自身が明日香村で生活する自信や村に対する誇りを持つことができるよう検討を進めるべき。
- 周辺市町村だけでなく、万葉集の全国的な広がりを活かして関連都市ともより戦略的に連携を深め、様々な媒体を活用した効果的な情報発信などにより、明日香村を訪問するための価値を創出するとともに、明日香村との関わりをつくることで遠方からの来訪を呼び込み、明日香村ならではの宿泊施設が提供できるよう検討を進めるべき。



教育旅行の国際展開



教育旅行で農家民泊



万葉の地名分布図

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(2) 将来的な取組みの基本的方向性（地域産業振興による地域活力の向上）

万葉集に関連する場所や施設を活かした観光の推進、バス利用の促進に向けた観光機能の付加など周遊観光に適した交通システムの構築等を推進すべき。

3. 地域産業振興による地域活力の向上（2/2）

- 万葉集に記された二上山や飛鳥川のような場所を手掛かりに、万葉文化館や犬養万葉記念館などの施設が発信する情報を活用しつつ、日本人の万葉集に対する理解の醸成を図ることはもちろんのこと、外国人に対する多言語での解説を行うことにより、万葉の文化や物語を感じながら理解を深めることができるよう検討を進めるべき。
- 明日香村が持つ歴史・文化を背景に、自然環境が織りなす魅力溢れる多様な環境の中で、訪れる人々が主役を演じることができる観光のあり方について検討を進めるべき。
- 公共交通システムの見直しにあたり、周遊バスや循環バスの利用を促すために、車体デザインの工夫やガイドの配置などをはじめ、バーチャル体験などの観光機能の付加などについて検討を進めるべき。
- 目標とする来訪者数や各種イベントの共通する目的など、観光に関する戦略を検討し、推進するための組織体制のあり方について検討を進めるべき。



奥飛鳥の眺望



犬養万葉記念館



万葉文化館（歌の広場）



甘樫丘展望台



かめバスのラッピング

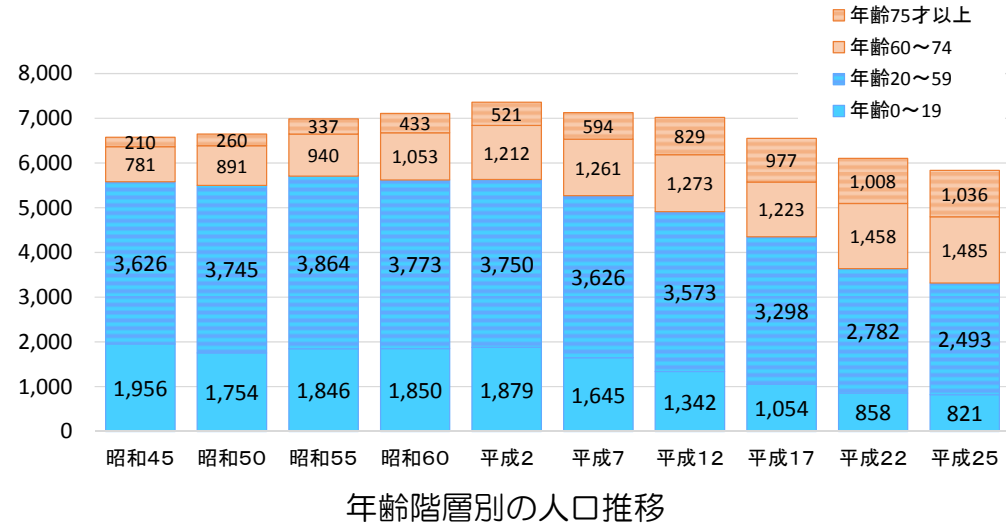
4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(2) 将来的な取組みの基本的方向性（歴史的風土を支える担い手の育成と確保）

若者の生活が成り立ち将来に対する展望が持てる生活基盤や基軸の検討、集落における生活や歴史的風土の担い手が暮らしやすく、移住・定住者が求める魅力的な村づくりの検討を進めるべき。

4. 歴史的風土を支える担い手の育成と確保

- 子どもたちに対する地域学を推進する中で、明日香村の歴史・文化として、文化財の特徴や自然と共生した生活の営み、集落に受け継がれた伝統行事、万葉集が持つ本質的な価値などを伝えていく工夫が求められており、そうした取組みが住民としての誇りや愛着を育て、長期的には将来の担い手の確保につながるという視点で今後検討を進めるべき。
- 若者の転出を引き留め、さらには転入を呼び込み、将来にわたって長く住み続けてもらうために、生活が成り立ち将来に対する展望が持てるよう、観光と農業に加え、新たな分野の産業育成、教育や医療に関する支援制度の充実など、生活の基盤や基軸についての検討を進めるべき。
- 集落における生活の形を維持していくため空き家の有効活用を図るとともに、新たな住宅ニーズに対応した若者への住まいの提供や定住促進策、就農希望者に対する農地の斡旋など、歴史的風土の担い手が暮らしやすい環境づくりに努めるとともに、新たな担い手を確保するための検討を進めるべき。
- 明日香ならでの住まい方の提案を外部に向けて発信するとともに、新たな住民に配慮した集落コミュニティとの接点の置き方に対する工夫など、転入希望者が移り住みたいと思う村のあり方と、村民が住み続けたいと思う村のあり方の各々を踏まえた魅力的な村づくりの検討を進めるべき。



郷土学習での田植え



都市計画法第34条11号区域に建つ新築住宅

4. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性

(2) 将来的な取組みの基本的方向性 (歴史的風土と調和した生活環境基盤の整備)

これまで整備されてきた生活基盤施設の老朽化への対応、Wi-Fi等により周遊観光に関する情報の受発信が快適に行えるための情報通信基盤の整備について検討を進めるべき。

5. 歴史的風土と調和した生活環境基盤の整備

- これまで整備されてきた生活環境基盤施設の老朽化に対するストックの再評価と更新を検討するにあわせて、人口減少社会における歴史的風土と調和した公共インフラ供給のあり方について検討を進めるべき。
- スマートフォンやタブレットなどを想定したバーチャル体験の展開や周遊観光に関する情報の受発信がより快適に行えるよう、wi-fi等情報通信の基盤整備を含めた生活環境基盤整備の検討を進めるべき。



小学校



給食センター



幼稚園



健康福祉センター



docomo wi-fi サービスエリア

(http://sasp.mapion.co.jp/b/docomo_wifi/)



ごみ処理施設



中央公民館